

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	上川郡新得町西3条南6丁目1-3		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成25年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族さんは遠方の方が多いので家族代理としての役割を任せられることも多く、電話で連絡を取り合いながら対応しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年11月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR新得駅近くの閑静な住宅街に位置し、日高山脈が眺望でき、新得山など自然の美しさを何時でも眺めることが出来る自然豊かな地にある。当法人が運営するシニアマンションが隣接し入居者が頻繁に来訪して交流している。母体法人は多くのグループホームを運営し、蓄積されたノウハウを研修、災害対策等で事業所と連携し相乗効果をあげている。職員は物静かで優しく丁寧な介護に徹底、日々の取組みも家族のように一人ひとりに寄り添い、利用者の表情は明るくそれぞれの居場所で、会話をしたり思い思いの事をして過ごし、来訪者にも気さくに話しかけるなど和やかな雰囲気である。町内会行事に積極的に参加し交流を深めると共に、町からの協力要請により小学6年生を対象とした「認知症キッズサポーター養成講座」に参加し、福祉について理解を得る取組をしている。利用者の平均年齢は85歳を超えたが、家庭的な雰囲気の中で、利用者自身が出来ることは無理せず任せ、やりがいを見出すよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念をつくり、町内会に参加し、小学校をはじめとし地域の行事にも参加している。	地域密着を重視した理念を職員全員で協議をして作成し、居間の見えやすいところに掲示をしている。職員は日常の介護で常に理念を意識し、理念に基づいた介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の花見やお祭りに参加し交流させて頂いている。入居者の方で地域の集会に毎週参加する方も居られ、送迎の支援をしている。	非常時に備えて近隣との付合いを大切と心掛け、町内会にも加入し、地域の高齢者の会合やお茶会等に参加して交流している。小学生を対象に認知症について知ってもらう研修会に参加するなど、福祉について理解を求め相互の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の小学6年生を対象とした認知症キッズサポーター養成講座に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、ホームの活動報告を意見をお願いしている。また、開催の内容は記録に残しカンファレンスで話し合ったりもする。	町内会長、民生委員、家族代表、町職員、地域包括センター職員が参加して年6回開催している。活動報告、事故報告などを行って、意見・要望事項を聴きながら意見交換している。丁寧な議事録を作成してサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の連絡調整や、運営推進会議の参加もお願いし協力を頂いている。包括支援センターが計画する小学生向け認知症サポーター養成講座のお手伝いや交流をさせて頂いている。	町役場の方が地域包括支援センターの職員で運営推進委員でもある為、常に新鮮な情報を得て指導を受けている。町の保健福祉課主催の研修会に協力をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は(防犯上)夜間職員が1人になった時にしか行っていない。拘束は禁止行為として全員が認識している。	夜間は防犯のために施錠している。法人の研修が定期的であり、職員は年に1回は参加して拘束のないケアに取り組んでいる。徘徊傾向のある利用者には、行動を常に見守ることで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で勉強したり、わからないことは職員間で話し合うなどし意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演や研修などで、制度について知る機会があった。該当者はいないが、今後必要性があれば活用できるよう関係者に相談していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前に面会し、パンフレットをお見せしホームについての説明をさせていただいている。面会后についても電話などで不安の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんは日常的に意見や要望をお話される。家族の方からの意見や要望にも出来る限り対応させて頂いている。	利用者の状況は毎月家族に報告をし、要望や意見を聴いている。家族の来訪時にはできるだけ会話を交わし、その中から要望を汲み取るよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月5日の本社会議に出席し、ホームの意見や現状を話している。	毎月法人の会議があり施設長が参加し、職員から要望があった場合は報告され反映されている。野菜など食材を品質や地域密着のために現地調達にすべきとの職員からの提案が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頑張っているスタッフは評価され、表彰や昇格することがある。個別の面談により、意見を聞いている。また、残業はないように皆が協力しあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は勿論、外部の研修等意欲のある人は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で交流する機会があるが、あまり活用出来ていない。相互交流などの機会があれば参加していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人やご家族の希望を伺いケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談では時間をかけて疑問や不安を伺う他、経験上どのように対応し解消できるかお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされるサービスを伺った上でプランを作成し、例えばご本人が楽しみにしている集會に継続していけるように声かけ、送迎など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思を尊重した上で、調理等の家事に参加して頂いている。入居者さんが巻き寿司をつくり盛り上がる事や花壇の手入れなどは畑仕事に詳しい入居者さんの助言を聞いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の対応では難しいこともあるので、家族さんに協力をお願いしている。通院や行事等で助けていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域へのドライブや馴染みの理容室の利用、自宅へ行く事もある。	地域の知り合い、友人が面会に来たり、入所前からのお茶会に継続参加したり、馴染みの理美容室に通えるように支援を行っている。家族が気持ちよく面会できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士のかかわりで、誤解やトラブルになることがあるのでスタッフが間に入るなどして配慮している。仲の良い方と入浴や買い物に		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町でお会いすると気軽に声をかけて下さる。友人が困っているとの相談を受けたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良いと思う事と、本人の希望が違う事もあるが出来る限り対応している。	日々の生活の中での会話、表情、動作から利用者の希望、意向を把握し対応している。困難な場合は家族からの情報を基に意向を把握している。兄弟の所に行きたいとの希望が実現できるよう尽力したことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式アセスメントを活用することや家族さんにお話を伺うことで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌などに記録を残し、情報をスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族さんにお話を伺う。カンファレンスでスタッフが意見を交換し、現状にあったプランを作成している。	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、職員は利用者がどのように変わったか振り返り問題点を話し合いながら介護計画を作成している。利用者家族の思いや状況などを確認して印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者がケアプランで気づいた事を報告し合い、計画作成担当者中心に見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	規定がない事案があっても対応可能か話し合い、必要に応じて協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんが開催する集會に参加できるよう支援している。参加することで地域の高齢者、知人とも交流が出来る。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでも契約している医療機関はあるが、ご本人のかかりつけ医を優先し対応している。馴染みの先生に診ていただくことで安心感につながっている。	本人・家族の意思を尊重して、かかりつけ医の受診が基本となっている。家族が送迎できる場合を除き、職員が同行・送迎し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は不在であるが、かかりつけ医院や町の保健師さん等に助言を受けながら対応していきたい。今後機会があれば看護師さんを確保したい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	不安を与えないよう早期の退院に備えている。面会時に関係者ともよく相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合のホームとしての考えと出来る事を説明させて頂いている。その上で、重度化に備えて家族の方には特別養護老人ホームへの手続きもすすめて頂いている。	契約時に、指針に基づいて重度化した場合に事業所ができること、病院などへの移行に協力することなどを説明し、確認をもらっている。	職員の自信やスキルアップにもつながることから、実践を想定した看取りに向けた研修会・勉強会を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受けている。新しいスタッフもいるので、消防署に相談の上で定期的な講習を受講したい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの訓練を行なっている。町内会の方にも協力をお願いし、関係を築いている。今後、周辺の住民の皆さんにも協力をお願いする。	事業所だけの訓練ではなく近隣の協力も得て災害対策に備えている。訓練は年2回実施している。災害に備えて避難場所の周知、職員の連絡網が整備され、食料・飲料水等が備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけて対応している。不快な思いをもたれない様、常に意識したい。	その人らしさや尊厳を大切に介護に努めている。プライバシー保護、接遇に関する職員研修を外部講師を招いて毎年実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳を傾けて、出来る限り対応している。直接に表現する事が苦手な方もおり、その人が訴えやすい雰囲気を理解し協力させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は様々で、希望などには出来る限り対応している。場合によってはシフトの変更なども行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行く事が出来ている。関心のない方にはスタッフがお手伝いさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品を個別に知るよう努めている。また、食事の準備等可能な限り利用者さんとなっている。	元気な利用者は職員と一緒に盛り付けや後片付けをしている。食事前に軽い運動を行い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。半年に1回施設の送迎バスで帯広へ行きバイキングを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居前の食生活を伺い、出来る事は行っている。水分量は記録し把握することで、水分不足にならないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない方には、歯磨きや義歯のケアを支援させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方には定時の確認をさせて頂き、入居者さんによってはポータブルトイレを設置している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しその人に合せトイレに誘導している。失敗した時は他の人に分からないようにさり気無く対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べる事で、下剤が不要になった方がいる。基本は医療機関のアドバイスを受けて予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を使い皆さんが入れるよう配慮している。毎日入りたい方にも出来る限り対応している。	基本的には週3回入浴出来るようになっているが、希望すれば何時でも入浴出来る体制を取っている。風呂を嫌う利用者には家族の協力を得るなどさまざまな工夫で対処している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息されている。食事時間に起きれないことがあっても、食事を取り置きするなどして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の表をファイルしすぐに見られるようにしている。薬が変わった時は、業務日誌に記載し変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事に参加したり、買い物、高齢者の会等に参加し楽しみを支援している。誕生日には、ご本人と担当職員が外食に行き、好きなお店で食べていただくことも好評を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小学校との交流もあり行事を見せていただくの楽しみにしている。家族さんと温泉に泊まりに行く方もおられる。バスを借りて皆で外食に行く事も楽しみにしている。	利用者の希望によって散歩に同行し気分転換や五感刺激となるよう支援している。買い物や花見、外食等季節ごとに車で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんとも相談の上、お小遣いを自己管理されている方も居る。支払いの際見守ることで、安心して買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分でTEL出来る方が居られるが、操作が苦手な方には対応している。難聴で電話の利用が困難な方にはスタッフが代わりに連絡をとり、家族の方に来て頂く事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の清掃で不快のないよう配慮している。設備は家庭的なもので、扱いやすい物になっている。	居間は明るく家庭的で、応接セット、テレビを設置し、嫌な臭いや音もなく落ち着いて過ごせる共有空間となっている。居室は年中太陽が入り、窓から花壇や野菜の生育状況が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ポーチや玄関等に座るところを設けており、利用されている方がおられる。冬季は寒いところなので、食卓や和室を活用していただく。独りになる方や、気のあう方と一緒に過ごす方も居る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを持ち込んでいただいている。大事な遺影を飾って、手を合わせている方もおられる。	室内は思い出の写真や趣味の物、遺影・位牌などが持込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの部屋の前には、お名前と写真を貼りわかりやすいように配慮している。		